

JAPAN CASTLES EXAM — EAST JAPAN BASIC

2026年9月版

日本名城検定東日本 想定問題集

解説つき 全問オリジナル作成

6

問収録

無料サンプル版

製品版は全160問

SKILL BASE CAMP

本書は非公式の学習教材です。試験を実施する団体の公認・監修を受けたものではありません。
公的機関の公表資料および一般に公開された情報のみに基づき、著者が独自に作成しています。

本書について

本書は、日本名城検定東日本（ベーシック）の想定問題集（全160問）の**無料サンプル版**です。製品版の構成・難易度・解説の書き方を確認していただくため、6問を抜粋しています。

対象	日本名城検定東日本（ベーシック）の受験者
出題形式	多肢選択式、問題数40問（受検案内「試験内容」東日本）
収録数	6問（各章の問題のあとに解答・解説）
準拠	受検案内・日本名城検定とは（一般社団法人日本総合検定資格センター、2026年9月取得）、および対象15城について自治体・教育委員会・宮内庁が公開している資料

本書が対象とする範囲について（必ずお読みください）

本試験は、東日本・中日本・西日本の3エリアで計100城を選出して出題されていますが、**東日本エリアの出題対象の城名一覧、および東日本に含まれる都道府県の範囲は、公式テキスト以外の 公開資料には記載がありません**。本書は、北海道・東北6県・関東1都6県を東日本の仮の範囲とし（甲信越は中日本版の範囲です）、そのうち自治体・教育委員会・宮内庁などの公開資料で所在地・沿革・構造などの裏付けが取れた**15城**（五稜郭・松前城・弘前城・盛岡城・仙台城・会津若松城・山形城・久保田城・水戸城・宇都宮城・箕輪城・川越城・佐倉城・江戸城・小田原城）と、城郭全般の一般知識（共通科目）で作問しています。本試験の出題対象の城・都道府県とは**ずれる可能性があります**。

科目別の出題割合も公表されていません。本書では、受検案内に列挙された中項目の数の比（東日本の日本名城全般8：共通3）にもとづいて配分しています。本試験の実際の出題比率を再現したものではありません。

本試験の形式と合格基準

本試験はWEB受検（自宅・職場などからパソコン・タブレット・スマートフォンで受検）の多肢選択式で、問題数は40問です。合格基準は正答率75%以上とされていますが、「難易度により調整されることがある」との注記があります。試験時間・配点は資料に記載がないため、本書では扱っていません。合否は検定日から約60日後にメールで個別に通知されるとされています。

2科目と配点

出願内容は「東日本の日本名城全般」（個別）と「共通」の2科目です。科目別の出題割合は公表されていないため、本書は受検案内が示す中項目の数の比にもとづき、次の配分で収録しています。

東日本の日本名城全般 116問（72.5%）

共通 44問（27.5%）

解き方の目安

「東日本の日本名城全般」は、所在地・別名・城地種類・築城年代・築城者・城主・城の歴史・城の構造という8つの観点で15城の事実を確認する構成です。同じ城の同じ事実を、属性を変えて二度問うことはしていないので、1問ずつ独立した知識として押さえてください。年数や面積を扱う計算問題は、資料の数値を足し算・引き算するだけで解けるように作っていますが、資料の数値が幅（「4年ないし7年後」のような表記）や複数の記載を含む場合は、その旨を解説に明記しています。「共通」は特定の城を問わない城郭の一般知識で、縄張・横矢・陣城・枳形・武者返しといった構成要素の名称と、古代から近代までの城の歴史の流れを扱います。

収録内容

サンプル問題

6問

7

本書のご利用にあたって

本書をお読みになる前に、以下の事項をご確認ください。ご購入・ご利用をもって、これらに同意いただいたものとみなします。

- 1. 本書は非公式の学習教材です。** 日本名城検定東日本を実施する一般社団法人日本総合検定資格センターの公認・監修・推奨を受けたものではなく、同機関および関係する事業者と本書の著者との間に、資本関係・提携関係・その他一切の関係はありません。
- 2. 東日本エリアの出題対象の城・都道府県は公表されていません。** 本書は、北海道・東北6県・関東1都6県を東日本の仮の範囲とし、公開資料で裏付けが取れた15城と 城郭全般の一般知識で作成した想定問題集です。本試験の出題対象の城・都道府県とはずれる可能性があります。科目別の出題割合も公表されていないため、受検案内が示す中項目の数の比で配分しています。
- 3. 本書の問題・解説は、すべて著者が独自に作成したものです。** 試験問題を再現・引用したものではありません。また、公式テキスト、講座資料、他社の教材から文章を転載した箇所也没有ありません。作成にあたっては、自治体・教育委員会・宮内庁など官公庁等が公表している資料のみを参照しています。
- 4. 本書は試験に出題される内容を予測・保証するものではありません。** 収録した問題は、公開されている出題範囲と公開資料をもとに著者が独自に構成した想定問題であり、 実際の出題との一致を意図したもののでも、保証するものでもありません。本書を学習しても合格を保証するものではありません。
- 5. 内容は制作時点の情報に基づきます。** 公式テキストの内容や、対象となる城の一覧が改定・拡充される可能性があります。本書の記述が 最新の状況と異なる場合がありますので、実際の受験にあたっては、必ず実施団体が公表する 一次情報をご確認ください。

6. **内容の正確性について。** 著者は内容の正確性に努めていますが、誤りがないことを保証するものではありません。本書の利用によって生じたいかなる損害についても、著者は責任を負いかねます。
7. **複製・再配布の禁止。** 本書は購入者ご本人が学習に利用する目的で提供されています。全部または一部を問わず、複製、転載、譲渡、貸与、公衆送信（インターネット上での共有・アップロードを含む）、翻案することを禁じます。
8. **商標について。** 本文中に記載される試験名、団体名、製品名、サービス名は、各社の商標または登録商標です。本文中では ™ および ® を省略しています。これらの表示は、当該商品・サービスを説明する 目的で用いているものであり、権利者による本書の承認を示すものではありません。

サンプル問題

製品版の構成・難易度・解説の書き方を確認していただくため、全収録問題から抜粋しています。計算問題・事例問題も含めています。

問 1

東日本の日本名城全般

五稜郭の堀の内側と水堀の面積

函館市の資料は、五稜郭の大きさを次のように示している。堀の内側と水堀を合わせた面積は何平方メートルか。

五稜郭の大きさ（函館市の資料より・単位：平方メートル）

区分	面積
堀の内側	125,500
水堀	56,400
堀の外側で史跡指定の所	69,000

- A 250,900平方メートル
- B 181,900平方メートル
- C 194,500平方メートル
- D 69,100平方メートル

問 2

東日本の日本名城全般

仙台城がこの地に築かれた理由

仙台市教育委員会の資料は、仙台城が青葉山の地に築かれた理由をどのように考えているか。最も適切なものはどれか。

- A 豊臣方の大名との合戦に備えて、海路からの攻撃を防ぎやすく、港町の発展も期待できる岬の地が選ばれたと考えられる。
- B 上杉氏との合戦に備えて、平野部を避け、城下町を置く余地のない険しい山地だけを持つ地が選ばれたと考えられる。
- C 上杉氏との合戦に備え、山城に向く丘陵地と、交通や城下町の発展が期待できる平野部をあわせ持つ地が選ばれたと考えられる。
- D 関ヶ原の戦いの前に、徳川氏との合戦に備えて、奥州街道を押さえられ城下町も広げやすい平野の中央が選ばれたと考えられる。

問 3

東日本の日本名城全般

千秋公園での案内

秋田市の千秋公園を訪れた旅行者のグループに、ガイドが久保田城の歴史を説明した。秋田市の資料に照らして最も適切な説明を選べ。

- A 「佐竹義宣は築城開始の翌年8月に久保田城へ入り、旧領主秋田氏の居城だった湊城は破棄されました。城跡は今、千秋公園として整備され、桜の名所にもなっています」
- B 「佐竹義宣が久保田城へ移ったあとも、湊城は久保田城の支城として明治まで使われ続けました。千秋公園はその湊城の跡地にあたります」
- C 「佐竹義宣は城の完成を待ち、寛永8年（1631）頃に湊城から久保田城へ居を移しました。それまで久保田城では普請が続いていました」
- D 「久保田城は神明山とは別の平地に築かれ、神明山の方が現在の千秋公園として整備されています」

問 4

東日本の日本名城全般

小田原城の総構

小田原城の総構について、小田原市の資料に照らして最も適切なものはどれか。

- A 徳川家康の来攻に備えて城下を囲む総延長9kmの総構を築き、江戸時代もその規模のまま城が保たれた
- B 豊臣秀吉の来攻に備えて本丸だけを囲む総延長900mの総構を築き、近世城郭の先駆けとなった
- C 江戸時代に稲葉氏が城下を囲む総延長9kmの総構を築き、城は日本最大の近世城郭となった
- D 豊臣秀吉の来攻に備えて城下を囲む総延長9kmに及ぶ総構を築き、城は日本最大の中世城郭に発展した

問 5

共通

踏査メモから陣城を見分ける

城跡めぐりの会で、山の尾根にある4か所の遺構を歩き、次のメモを作った。福岡県教育委員会の豊前地域の城館跡の調査報告書が永禄期の陣城遺構に似るとした城館の特徴に照らして、陣城の可能性が最も高いとみられる地点はどれか。

踏査メモ（尾根上の4地点）

地点	平坦面の造成	堀切などの遮断施設	曲輪の並び方
甲	明瞭に造成	要所に堀切あり	大きな曲輪を中心に配置
乙	自然地形に近い	確認できない	尾根に沿って小曲輪が階段状に連続
丙	明瞭に造成	三重の堀切	主郭の周りに帯曲輪
丁	石垣で固める	横堀をめぐらす	枡形の虎口を持つ主郭

- A 地点甲
- B 地点乙
- C 地点丙
- D 地点丁

問 6

共通

古代山城の土塁と版築

古代山城の土塁に用いられた「版築」について、資料の説明として最も適切なものはどれか。

- A 6世紀頃までの古墳の盛土で広く使われていた工法で、古代山城の土塁はその技術をそのまま受け継いだものとされる
- B 日本に伝わった版築は、中国黄河流域の黄土だけを叩き締める本来の方法を、材料も手順も変えずに用いたものとされる
- C 大野城の城壁は、尾根部だけでなく谷部も含めて、すべて版築による土塁で築かれていると説明されている
- D 堰板を用いて土を固く突き固めながら積み上げる工法で、地方で大規模に用いられたのは古代山城が初めてとされる

解答・解説

問 1 正解 B 東日本の日本名城全般 五稜郭の堀の内側と水堀の面積

堀の内側の面積に水堀の面積を足す。

面積の計算（単位：平方メートル）

区分	面積
堀の内側	125,500
水堀	56,400
合計	181,900

$125,500 + 56,400 = 181,900$ 平方メートルである。なお、資料が「東京ドームの約3倍」と説明しているのは、堀の内側の約125,500平方メートルについてである。したがって **B** が正しい。

他の選択肢 A は誤り。 $125,500 + 56,400 + 69,000 = 250,900$ で、堀の外側の史跡指定の所まで足した値である。C は誤り。 $125,500 + 69,000 = 194,500$ で、水堀ではなく堀の外側の史跡指定の所を足した値である。D は誤り。 $125,500 - 56,400 = 69,100$ で、足すべきところを引いた値である。

出典 特別史跡五稜郭跡（函館市、2023年6月16日公開）「五稜郭の形と大きさ」

問 2 正解 C 東日本の日本名城全般 仙台城がこの地に築かれた理由

仙台市の資料によると、関ヶ原の戦い後も徳川氏に敵対していた上杉氏との合戦に備え、砦（山城）が必要となった。そこで「守るに易く、攻めるに難い」山城を築くの
にふさわしい丘陵地と、交通や城下町の発展が期待できる平野部をあわせ持った仙台
（青葉山）の地が選ばれたと考えられる、としている。したがって C が正しい。

他の選択肢 A は誤り。資料が挙げる合戦の相手は上杉氏であり、海路の防御や港町、岬
の地という説明はない。B は誤り。上杉氏との合戦に備えた点は合っているが、資料は丘
陵地と平野部をあわせ持つことを理由に挙げており、平野部を避けたのではない。D は誤
り。縄張りに関ヶ原の戦いの直後であり、備えた相手も徳川氏ではなく、徳川氏に敵対し
ていた上杉氏である。

出典 仙台城の紹介ー仙台城についてー（仙台市公式ホームページ、2026年1月19日更新）「仙台城
の成り立ち」なぜこの場所につくられたのか

問 3 正解 A 東日本の日本名城全般 千秋公園での案内

秋田市の資料に、築城は慶長8年（1603）5月に始まり、翌年8月に初代藩主佐竹義宣
が入城し、旧領主秋田氏の居城であった湊城は破棄されたとある。また、久保田城跡
は現在千秋公園として整備され、市民の憩いの場として、また桜の名所としても親し
まれているとある。したがって A が正しい。

他の選択肢 B は誤り。湊城は義宣の入城にともなって破棄されており、千秋公園は久保
田城の跡である。C は誤り。義宣は築城開始の翌年に入城しており、その後も城普請が続
いて1631年頃に完成したとされる。完成を待って移ったのではない。D は誤り。資料で
は城は神明山（現在の千秋公園）に築かれたとあり、城跡が千秋公園である。

出典 久保田城について（秋田市）冒頭・「久保田城の概要」

問 4 正解 D 東日本の日本名城全般 小田原城の総構

小田原市の資料によると、小田原城は北条氏のもとで関東支配の中心拠点として拡張され、豊臣秀吉の来攻に備えて城下を囲む総延長9kmに及ぶ総構が出現して規模は最大に達し、日本最大の中世城郭に発展した。現在は本丸・二の丸の大部分とともに総構の一部も国の史跡に指定されている。したがって D が正しい。

他の選択肢 A は誤り。総構は秀吉の来攻に備えたもので、江戸時代には大久保氏のもとで城の規模は三の丸以内に縮小された。B は誤り。総構は本丸だけでなく城下を囲むもので、総延長は9kmに及ぶ。C は誤り。総構は戦国時代に北条氏のもとで築かれたもので、資料が「日本最大」とするのは中世城郭としての規模である。

出典 小田原市「小田原城」(2012年3月12日最終更新) 本文第2段落・「小田原城址公園」第1～3段落

問 5 正解 B 共通 踏査メモから陣城を見分ける

報告書は茶臼山城について、自然の平坦地形が広がる箇所はあまり造成されず、尾根線に階段状に小曲輪群が築かれ、堀切などの防御遺構は一切確認できないことから、吉川城などのような永禄期の陣城遺構に類似する印象を受けるとしている。吉川城も、尾根上の小曲輪群を延長していく縄張で、堀などの遮断・防御遺構は確認できないと説明されている。メモのうちこの特徴にそろって当てはまるのは地点乙である。したがって B が正しい。

他の選択肢 A は誤り。報告書は、平坦面が明瞭で要所に堀切を備えた地区について、ある意味恒常的な構えの印象を受けるとしている。C は誤り。三重の堀切をめぐる明瞭に造成した構えは、堀切を持たない陣城の特徴と合わない。D は誤り。石垣・横堀・枳形の虎口を備えた主郭は、報告書が陣城に類似するとした特徴と合わない。

出典 福岡県の中近世城館跡Ⅲ—豊前地域編—(福岡県文化財調査報告書第254集、2016年) 豊前45 茶臼山城【概要】、豊前24 吉川城【概要】、豊前134 障子ヶ岳城 周辺城館群(K地区)【概要】

問 6 正解 D 共通 古代山城の土塁と版築

資料は、大野城の土塁を堰板を使って土を固く突き固めながら積み上げる版築工法によるものと説明する。版築は7世紀代の寺院の基礎や基壇などにも使われたが、地方で大規模に用いられたのは古代山城が初めてで、当時最新の土木技術だったとされる。したがって D が正しい。

他の選択肢 A は誤り。6世紀頃までの古墳の盛土は「土嚢積み」と呼ばれる工法で、版築ではないとされる。B は誤り。朝鮮半島を経て伝わった版築は、粘度の異なる土や砂・粘土を交互に積み重ねて一層ずつ叩き締めるもので、中国本来のものとは若干異なるとされる。C は誤り。大野城の谷部には、粗割りした石を積み上げた石塁が見られると説明されている。

出典 大宰府と古代山城の年代論（九州国立博物館ほか、2017年シンポジウム記録）第2章「2. 水城・大野城の築造時期」（2）大野城、第3章「2. 従来の日本古代山城の年代論」、同「3. 韓国城郭からみた編年」版築土塁

本章の出典

- ・ 特別史跡五稜郭跡（函館市 教育委員会生涯学習部文化財課、2023年6月16日公開）
- ・ 五稜郭の歴史（築造から大政奉還）（函館市 教育委員会生涯学習部文化財課、2023年6月16日公開）
- ・ 五稜郭の歴史（箱館戦争から現在）（函館市 教育委員会生涯学習部文化財課、2023年6月16日公開）
- ・ 福山城（松前城）本丸御門（まつまへの文化財、松前町）
- ・ 弘前城と石垣修理の歴史（弘前市公式ホームページ「弘前城本丸石垣修理事業」、2026年9月29日取得）
- ・ 盛岡城跡 盛岡城の歴史（盛岡市公式ホームページ、教育委員会歴史文化課、2025年2月25日更新、2026年9月29日取得）
- ・ 仙台城の紹介－仙台城について－（仙台市公式ホームページ、教育局文化財課、2026年1月19日更新、2026年9月29日取得）
- ・ 会津の歴史（鶴ヶ城）略年表（一般財団法人会津若松観光ビューロー（会津若松市所有の鶴ヶ城の指定管理者）、2026年9月29日閲覧）
- ・ 山形城と歴代の城主／山形城の特徴（山形市「国指定史跡 山形城」、2026年9月29日閲覧）
- ・ 久保田城について（秋田市、平成30年11月27日更新、2026年9月29日閲覧）
- ・ 川越市「開館時間・入館料金・休館日（川越城本丸御殿）」（川越市立博物館、2025年9月4日更新）
- ・ 川越市「太田道灌を大河ドラマに！」（産業観光部観光課、2024年11月22日更新）
- ・ 千代田区「まちの記憶保存プレートガイド：江戸城築城」（2025年3月26日更新、出典「千代田まち事典」）
- ・ 宮内庁「園内に残る歴史的建造物と皇居附属庭園の美」（皇居東御苑、2026年9月閲覧）
- ・ 小田原市「小田原城」（小田原 時の回廊、2012年3月12日最終更新）
- ・ 建築・構造「縄張」（名古屋城公式ウェブサイト、名古屋市観光文化交流局名古屋城総合事務所）
- ・ 建築・構造「天守」「堀・石垣」（名古屋城公式ウェブサイト、名古屋市観光文化交流局名古屋城総合事務所）
- ・ 福岡県の中近世城館跡Ⅲ－豊前地域編－（福岡県文化財調査報告書第254集、福岡県教育委員会、2016年）
- ・ 国指定史跡 山形城「山形城の特徴」（山形市）

-
- 園内に残る歴史的建造物と皇居附属庭園の美（皇居東御苑、宮内庁）
 - 特別史跡五稜郭跡（概要）（函館市）
 - 盛岡城跡 盛岡城の歴史（盛岡市）
 - 仙台城の紹介—仙台城について—（仙台市）
 - 大宰府と古代山城の年代論（特別史跡 大宰府跡・大野城跡・水城跡 調査研究報告 第2部、九州国立博物館ほか、シンポジウム「徹底追究！大宰府と古代山城の誕生」2017年2月の記録）
 - 福岡県の中近世城館跡Ⅲ—豊前地域編—（福岡県文化財調査報告書第254集、福岡県教育委員会、2016年3月）
 - まちの記憶保存プレートガイド：江戸城築城（千代田区、2026年9月閲覧）／園内に残る歴史的建造物と皇居附属庭園の美（皇居東御苑）（宮内庁、2026年9月閲覧）
 - 久保田城について（秋田市、2018年11月更新）
 - 弘前城と石垣修理の歴史（弘前市、2026年9月閲覧）
 - 明治23年に、政府が各地の城を払い下げた法的根拠を知りたい（レファレンス協同データベース、国立国会図書館、提供館 埼玉県立久喜図書館、2007年12月更新）
 - 天守等の復元の在り方について（取りまとめ）（文化庁 史跡等における歴史的建造物の復元の在り方に関するワーキンググループ、令和元年8月）
 - 史跡（文化財の紹介、文化庁、2026年9月閲覧）

いずれも公的機関等が公表している資料です。制度は改正されるため、受験にあたっては必ず最新版をご確認ください。

日本名城検定東日本 想定問題集

2026年9月版（第1.2版・2026年10月14日改訂）

発行：Skill Base Camp <https://skillbasecamp.com>

本書は非公式の学習教材であり、試験を実施する団体の公認・監修を受けたものではありません。

内容は公開情報に基づき著者が独自に作成しています。制作時点の情報に基づくため、制度の最新の状況は一次情報をご確認ください。

文中に記載される試験名・団体名・製品名は、各社の商標または登録商標です。本文中では ™ および ® を省略しています。